

社協だより

いわてまち



93号
2019.3月

水堀保育所では、ひな祭りをみんなで楽しみました!



編集と発行

社会福祉法人 岩手町社会福祉協議会

岩手町大字五日市10-51-1

TEL.0195-62-3570 FAX.0195-62-1599

●Eメール iwaketow@eins.rnac.ne.jp

●ホームページ http://iwatemachi_shakyo.org

目次

- 第26回岩手町福祉作文コンクール作品紹介… 2～10
- 生活福祉資金貸付制度のご案内…………… 11
- 赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金のご報告… 12～13
- 生活困窮者自立支援制度のご紹介…………… 14
- 日常生活自立支援事業のご紹介…………… 15
- 岩手町社会福祉協議会ホームページのご紹介
- まちの福祉・寄附のご報告…………… 16

この広報誌は、共同募金配分金の一部をあてて発行しています。

第26回岩手町福祉作文コンクール作品紹介

育てよう 思いやりの心 助け合いの心 福祉の心

社会福祉協議会では町内の小・中・高校生を対象に、高齢者や障がい者にやさしいまちづくりを目指し、地域福祉への理解と関心を高めることを目的として、岩手町福祉作文コンクールを毎年実施しています。26回目を迎えた今年度も、学校や家庭、福祉施設での体験や、高齢者・障がい者との交流によって育まれた思いやりの心・助け合いの気持ちなど、福祉の心にあふれたたくさんの作品が寄せられました。

第26回岩手町福祉作文コンクール 入選作品

《小学校 低学年の部》（応募総数 9 点）

入 選	学校名	学年	氏 名		作 品 名
最優秀賞	一方井小学校	1	宮 崎 藍 鈴	みやざき あいり	じっちゃんとわたし
優 秀 賞	久 保 小 学 校	2	三 浦 惟	みうら ゆい	木が生まれかわる
佳 作	沼宮内小学校	1	上 澤 初 音	かみさわ はつね	ばば、いつまでもなわとびしようね
佳 作	沼宮内小学校	1	遠 藤 憂 来	えんどう ゆら	大すきかぞく
佳 作	沼宮内小学校	2	家 村 咲 菜	いえむら さな	おばあちゃんのやき鳥
佳 作	川 口 小 学 校	2	本 田 菜 桜	ほんだ なお	ケアホームに行ったよ
佳 作	一方井小学校	2	松 本 寧	まつもと ねね	おじいちゃんのこと、すごいな

《小学校 中学年の部》（応募総数 17 点）

入 選	学校名	学年	氏 名		作 品 名
最優秀賞	沼宮内小学校	4	田 中 和 香	たなか わか	みんなを笑顔にするあいさつ
優 秀 賞	川 口 小 学 校	4	工 藤 澄 佳	くどう すみか	認知症でも安心してくらせるように
佳 作	沼宮内小学校	4	斉 藤 沙 和	さいとう さわ	みんなを大切に
佳 作	沼宮内小学校	4	水賀美 尚 子	みずがみ なおこ	やさしくなれるかな
佳 作	沼宮内小学校	4	田 村 優 奈	たむら ゆうな	だれにでも優しく
佳 作	一方井小学校	3	田 中 優莉奈	たなか ゆりな	わたしが生まれたときのこと
佳 作	一方井小学校	4	松 原 心	まつばら こころ	明るい笑顔で過ごせるように
佳 作	一方井小学校	4	武 田 琉 慎	たけだ りゅうしん	新しい家族
佳 作	久 保 小 学 校	4	武 田 椿	たけだ つばき	わたしにできること

《小学校 高学年の部》（応募総数 12 点）

入 選	学校名	学年	氏 名		作 品 名
最優秀賞	沼宮内小学校	5	高 橋 史 歩	たかはし しほ	親指がないということ
優 秀 賞	沼宮内小学校	5	笈 口 幹 太	おいぐち かんた	みんなが幸せになる方法
佳 作	沼宮内小学校	5	三 浦 巴 琉	みうら はる	転んでも大丈夫
佳 作	沼宮内小学校	6	山 崎 花 楓	やまざき かえで	妹がいる事
佳 作	沼宮内小学校	6	遠 藤 青 羽	えんどう せいほ	お互い様だよ
佳 作	一方井小学校	5	田 村 海 未	たむら みみ	病気の人を支えたい
佳 作	一方井小学校	6	今 松 悠 隼	いままつ ゆうと	だれもが活やくできる社会を
佳 作	久 保 小 学 校	6	川 上 匠	かわかみ たくみ	キャップハンディー体験を通して

《中学校の部》（応募総数 30 点）

入 選	学校名	学年	氏 名		作 品 名
最優秀賞	沼宮内中学校	3	立 花 遥	たちばな はる	障がいへの理解
優 秀 賞	沼宮内中学校	3	中 澤 夏那子	なかさわ かなこ	お年寄りには親切に
佳 作	川 口 中 学 校	1	瀧 本 珠 希	たきもと みき	臓器移植について考えてほしい
佳 作	川 口 中 学 校	2	久 保 深 悠	くぼ みゆう	夢の原点
佳 作	一方井中学校	1	高 村 穂乃香	たかむら ほのか	どんな人でも暮らしやすい社会を
佳 作	一方井中学校	3	遠 藤 愛 佳	えんどう あいか	祖母から学んだ地域との関わり方
佳 作	一方井中学校	3	雛 鶴 彩 希	ひなづる みさき	尊敬する祖父から学んだこと

《高校の部》（応募総数 2 点）

入 選	学校名	学年	氏 名		作 品 名
最優秀賞	沼宮内高等学校	2	今 松	悠 いままつ ゆう	「笑顔」と「元気」の宅急便
優 秀 賞	沼宮内高等学校	2	若子内	絃 わかこない げん	助けたい思い

作品紹介

小学校 低学年の部

じっちゃんをわたい

一方井小学校 一年 宮崎 藍鈴

わたしが、じっちゃんにあったのは、はじめてがっこうにいくあさでした。じっちゃんは、おてらのところにたっていて、みんなに

「おはよう。」

といていました。かがにっことしていました。いわれたひとたちも、じっちゃんのことばをくりかえすように、

「おはようございます。」

といていました。じっちゃんとはなしているひともいて、がっこうのみんなにんきなんだなおもいました。

でも、わたしは、じっちゃんが、なにをしているのかふしぎでした。いままで、こんなふうにみんなにあいさつをしているひとをみたことがなかったからです。

わたしは、じっちゃんに、「なんで、みんなとはなしているの。」ときいてみました。すると、

「みんなをたのしくしながら、がっこうにいかせるためだよ。」とおしえてくれました。わたしは、

とってもうれしくなりました。

あさだけでなく、かえりには、しんごうのところにいました。

「きをつけてね。」

といわれたので、わたしも、

「はい。」

といいました。なんだかげんきがないときも、じっちゃんは、

「げんきだせよ。」

といてはげましてくれました。わたしは、すつごいげんきができました。

いまのわたしは、じっちゃんにあってうれしくなつて、

「おはよう。」

とおおきなこえでいって、てをふっています。「いつもありがとう。じっちゃんもがんばってね。」というきもちです。じっちゃんは、わたしたちが、まいにちげんきでいられるように、じこにあわないうようにみまもってくれます。だから、わたしもきをつけてあるいています。

わたしは、これからありがとうというきもちをこめて、げんきにあいさつをしたいです。

講評

この作品は、地域のスクールガードの「じっちゃん」と、小学校入学したての一年生のほのぼのとしたふれあいを描いており、一編の短編小説を読んでいるかのような気持ちにさせてくれました。素直な表現が特に印象的です。

わたしは、じっちゃんに、「なんで、みんなとはなしているの」ときいてみました。すると、「みんなをたのしくしながら、がっこうにいかせるためだよ」とおしえてくれました。わたしはうれしくなりました。

このように、じっちゃんとわたしのふれあいの場面の情景描写が、丁寧で巧みで素敵な作品に仕上がっていると思います。ふれあい場面からは、じっちゃんに対する感謝と優しさが溢れ、たくさんの元氣と勇氣をもらいながら登下校する様子が目に浮かんできます。きっと、じっちゃんも多くの子どもを見守り、接しながら、たくさんの元氣や生きる勇氣をもらっていることが想像できる作品だと思います。

作品紹介

小学校 中学年の部

みんなを笑顔にする
あいさつ沼宮内小学校 四年 田中 和香たなか わか

私は、今年の四月に、この岩手町に引っこしてきました。引っこしてきた時は、不安な気持ちと、この町にはどんな人がいるんだろうというワクワクした気持ちとがありました。引っこしてきたばかりの時は、お父さんもお母さんもおもしろくなくて、私もなんだか気持ちが落ち着かなかったので、話し相手は妹のゆうかだけでした。あいさつも積極的にできませんでした。

でも、家の中もだんだんと落ち着いてきたころ、私は、平泉の学校にいた時のことを思い出しました。私は、前の学校で「あいさつ名人」に選ばれたのです。同じクラスの友達に言われた言葉も思い出しました。「新しい学校でも、あいさつ名人になってください。」

平泉のみんなのためにも、がんばろうと思いました。

まず、私が始めたのは、外で会った人みんなにあいさつをすることです。最初は、はずかしい気持ちの方が大きかったです。でも、毎日毎日続けていくうちに、あいさつすることが楽しくなってきました。地域の人、学校の友達、先生、いろいろな人にあいさつをするたびに、相手もあいさつを返してくれるので、あいさつが楽しいのです。そのうちに、「あいさつをしないと、相手は悲しい気持ちになるかも。」と、相手のことも考えられるようになりました。あいさつをすると、おたがいが笑顔になります。あいさつをすると、した方もされた方もうれしい気持ちになります。

今、沼宮内小学校では、全校であいさつ運動に取り組んでいます。私は、登校中や下校中にたくさんの人と会うのですが、そのたびにその場にあったあいさつをしています。私心がけているのは、明るい大きな声です。相手に伝わらないと、あいさつをする意味がないからです。相手に伝わるあいさつで、私はあいさつ名人を目指します。

講評

この作品は、転校という生活の変化によって新しい学校の生活に大きな不安を感じていたところ、以前通っていた学校で学んで得た「あいさつ名人」という称号を思い出し、再び「あいさつ」の実践をとおして自信を持つて学校生活を送れるようになった作者の心の変化を述べた素晴らしい作品です。

『「あいさつをしないと、相手は悲しい気持ちになるかも」と、相手のことも考えられるようになりました。あいさつをすると、おたがいが笑顔になります。あいさつをすると、した方もされた方もうれしい気持ちになります。』あいさつをとおして人を思いやる心、優しい心遣いを、そして相手を笑顔にするということを学び続けている作者の思いが伝わってくるようです。

みんなが「あいさつ名人」をめざす学校になるような気がします。

作品紹介

小学校 高学年の部

親指がないとどうなるの

沼宮内小学校 五年 高橋 史歩

「親指を持っているのは、ヒトだけ。」

その一文に、疑問をいだきながら、「ヒトの親指はエライ」という本を読みました。

ウマやキリンは、陸に住む肉食動物からのがれるために、速く走れる足の形に進化していきました。ウマの手足の指は一本。キリンは二本。ライオンは、つかまえた動物をつかむために、指があります。モグラもコウモリも自分が生き残るために、指の形に特ちょうがあります。ヒトに似ているサルでも、自分たちのくらし方に合わせて、指の形に特ちょうがあります。

ところがヒトの指には、特ちょうがないのです。だからこそ、何でもできるのです。木の上でのくらしで前足が特しゅ化する前に地上での生活に切りかえたこと。その結果、よく動く親指を手に入れたこと。その

親指を使って、いろいろな道具を作ったために脳が発達したこと。このように数え切れないぐうぜんが重なってヒトがたん生したので。そして、この親指がなければ、ヒトは、はさみを使ったり、はしをにぎったり、ボールを投げたりできないのです。

そんな大事な親指がわたしの妹には、ありません。十万人に一人しかからないというホルト・オーラムしようこう群という病氣なのです。心ぞうのき形と手のい常が合ぺいる病氣です。両親は「まさか自分の子が」とショックで落ちこんだそうです。でも、この子のために前に進もうと二人で気持ちを切りかえたそうです。莉子は莉子。莉子を受け入れ、莉子のやることを支える。

はさみが持てないときは、母は、まるで研究者のようです。どの指を使えば、はさみを動かすことができるのか、何度も練習させます。そして

「使いにくかったら、言つて。」と、いろいろな方法を試します。「なんとかなるさ。」という母のリーダーシップの下、家族みんなで莉子を応援します。今までは、親指があつ

てもなくても同じだと、思っていたのです。だって、妹は、いつも明るくて、すぐく元氣だったからです。けんかして、「もう、知らない。」なんて言つて、何度けんかしたことか。

でも、小学校に入学することでも不安になりました。友達に、手のことを何て言われるだろう。いじめられないだろうか。自分のことはできるだろうか。コップでさえ、かた手で持てないのです。だから莉子がつらい思いをしないように、莉子のことをみんなに知つてほしくて、作文に書きました。どうしても一人では、できないこともあります。みんなが支えてくれたらうれいいます。今、莉子は親指の手術をするために入院しています。莉子が帰つてきたら、利き手ではない左手の生活の始まりです。不安はありますが、母をリーダーに、みんなで莉子を支えたいです。莉子のえがおがいっぱい見られますように。

作品紹介

講評

この作品は、冒頭に「ヒトの親指はエライ」という本を読んで人間の指の役割の重要さを述べて、主題につなげるという読み手を自然に作品に引き込む工夫が生かされたものになっています。

妹の病気を家族みんなで受け入れ、なんとか親指の役目を果たすようになるために多くの方法を試し、家族みんなががんばりあう状況が、詳細に語られているところに深い家族愛を感じました。また、妹が小学校に入学するといじめに遭うのではないかと心配をする姉が、妹をかばう優しい心にも感動しました。

将来、わたしたちが様々な障がいのある人と接しながら、どのように付き合い、どのように支えてやればよいかを、日々の生活から感じ取り、学んでいけばよいかを示唆するような作品だと思います。

中学校の部

障がいへの理解

沼宮内中学校 三年

立花 遥 たちばな はる

皆さんは、ADHDという言葉を知っていますか。日本語に直すと、注意欠如、多動症といいます。これは発達障害の一種であり、主な症状として、三つがあります。うつかりミスや集中困難、忘れ物などの不注意。じっとしていない、落ちつきのない言動といった多動性。待つことができず、思いついたら即実行といった衝動性、といった三つが主な症状です。人によってどれが症状として出るかは違い、三つ全てが強く出る場合もあります。なぜ、僕が詳しく知っているかというと、僕の弟がADHDだからです。

それがわかったのは去年、弟が小学二年生のときです。昔から少し落ちつきのない子でした。症状としては一番厄介な混合性で、三つ全てが強く出ていました。いつも弟は、動き回り、大きな声でしゃべり、思い通りにならないとぐずって泣き出し

てしていました。その度に僕はイライラし、時に怒りから手を出すことも少なくありませんでした。さらに、その症状は学校でも出ており、授業中も落ちつきがなく、トラブルもよく起こしていました。それで支援学級などに入ってくれば、支援が必要な子だと我慢はできたかもしれない。しかし、弟は勉強はできてしまうので、普通の子と同じ環境の中で、ただ聞き分けの悪い子という風に見えてしまうのです。薬が出てからは、学校では落ちつき始めましたが、夜は効果が切れて落ちつきを無くし、怒りくることもありました。僕はそんな弟が大嫌いでした。少しでもケンカになれば、こちらが注意され、理由を説明しても、「そういう子だから、しょうがない。年上の人が我慢しなくちゃいけないってわかってるでしょ。」という風に弟が守られるのがとても嫌でした。その見方が変わったのは、去年の終わりごろです。弟のADHDがわかってからは、それに関する本がたくさん家に置かれるようになり、親も、「一回でいいから、その本を読んでみて。」

作品紹介

と何回も言ってきました。読む気はありませんでしたが、ひまな時パッと取って読んでみました。その本を読んで、僕の気持ちは大きく変化しました。それまで、怒ってばかりだったけど、その前に理由を聞いて納得してから、怒るのではなく叱るという心を心がけました。最初は、やはり上手いかなかったけど、今はイライラすることもほとんどなく、仲良くしています。

二年前、神奈川県障害者施設で起こった殺人事件を覚えているでしょうか。神奈川の障害者施設に侵入した男が十九人を殺害した事件です。犯人の男は元職員であり、この事件は全国に衝撃を与えました。犯人は、

「意思疎通ができなくてイライラした。障害者なんていなくなってしまうと思ってやった。」

と話しました。これを見たとき、少しドキッしました。まさに僕の、弟への感情と同じだったのです。でも、世の中には、障害をもっている人を、「普通と違うから」「面倒だから」という理由で忌み嫌う人がほとんどだと思います。その人達には、本人たちの意思でそうなった訳ではない

講評

「発達障がい」ということが世の中で認知されるようになって以降、様々なメディアで取り上げられ見聞きする機会も増えていますが、まだ、発達障がいということの理解が十分ではなく、周囲から差別をされることも多くあります。

発達障がいは、その当事者も持つ特性であり、周囲が理解を示し、適切な対応を続けられれば、社会生活を十分に送れると言われています。知的な遅れはなく、ヒトとの距離感や空気感を察することが苦手、コミュニケーションが苦手、こだわり行動・限局性の興味などが見とめられる特性です。岩手町でもこのような発達障がいのことを理解している人は少なく、支援をしていける状況も十分とはいえません。そのため、当事者や当事者の家族の支援も十分とはいえない状況です。

ということを第一に考えてほしいです。今の時代、たくさん障がいがあります。それらはなおるものではありません。だから、周りのフォロー

や手助けがとても重要です。もっと、障がいへの理解を深め、誰とでも分け隔てなく接することのできる世界になってほしいです。

この作品の中には、障がいを持つ弟のことをわかってもらいたいという強い思いが込められています。また、作者が弟との日々の生活の中で、様々なことを弟から学び成長していく様子が、とてもよく書けている作品です。

「普通と違うから」「面倒だから」ということには、「はっ」とさせられました。気がつかないうちに、自分自身も障がい者に対して、偏見やここにいる人ではない等と決めつけてしまっているのではないかと。

多様性の時代、「みんなちがって、みんないい」とはいうが、これは理想なのか。

坂村真民氏が曰く、『すべては光る、光る、光る、すべては光る、光らないものは一つとしてない。みずから光らないものは、他から光を受けて光る。』

作品紹介

高等学校の部

『笑顔』と『元気』の
宅急便沼宮内高等学校 二年 今松 悠いままつ ゆう

昨年、私は岩手町森のアリーナで行われたボランティア交流イベントに参加しました。

高齢の方々や障がいをもった方々と交流を深めるというイベント内容で、「お手伝い」で参加させていただきました。ボランティア活動に参加したのは、私にとって初めての体験でした。だから、どのような事をすれば良いか、どのように接したら良いのか分からずに不安でした。

私の役目はスタッフ補助でした。交流会を盛り上げるために、子ども達と前に出て踊ったり、一緒にゲームをしたりしました。また、着ぐるみを着て人員誘導や、弁当の受け渡し等もしました。

参加した皆さんが、この交流会を楽しみにしていたようです。高齢者の方々からは、

「普段、なかなか若者と触れ合う機

会が無く、このような交流の場を設けてくれるのは嬉しい。」という感想をいただきました。

この交流会に参加した「お手伝い」の方々は、一緒に参加した私の友人の他にも沢山いました。その人達は私とは異なり、多くのボランティア経験があり、震災に関わる復興活動にも参加したことがあるそうです。

経験豊富かつとても楽しそうに活動している姿に尊敬の念を抱きました。私や友人が上手く「お手伝い」をできなかった時に、経験豊富な人達は率先して行動し、アドバイスをしてくれたので、真似をすることで何とか過ごすことができました。また、経験豊富な人達は気さくに話しかけ、親切に教えてくれました。そして、イベントに参加した方々から、逆に私が気にかけてもらい、恥ずかしい反面安心して交流会に参加できました。

経験豊富な人達から学んだことが二つあります。一つ目は笑顔で話しかけること。二つ目は高齢の方々や障がいをもった方々を楽しませるために、誰よりも私自身が心から楽しむことです。私が笑顔で話しかければ相手も笑顔で答えてくれる。私が

楽しめば相手にも楽しさが伝わる。この二つが交流会には必要不可欠でした。この二つの要素を学んでいなければ、私は変な羞恥心が表面化し、子ども達と踊るときに笑顔で楽しめなかったと思います。

交流会に参加した高齢の方や障がいをもった方は健常者と比べて身体を動かさずらそうで動作が遅かったり、介助や補助が必要だったり様々でした。しかし、会話をしてみると身体的に多少不自由なだけで、それ以外は健常者とも何も変わりはありません。だからこそ、社会的に支える必要があります。

日本はバスや電車などの優先席や車いすのためのスロープなどの福祉設備、年金などの福祉制度が充実しており、良い国だと思います。現在ある設備や制度を利用することで、個人の生活の質を安定させることが大切だと改めて思いました。

しかし、前述した便利な制度がある一方で、障がいをもつ方が働く場所や活動場所は非常に少ないです。働きたい意思はあるのに働く場がないという事実は社会問題です。

「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」という言葉は浸透しつ

作品紹介

つあります。これは、自分である程度動ける方には有効です。しかし、残念ながら重度な障がいをもつ方にとっては効力を発揮できないのではないのでしょうか。重度障がい者を雇う企業や会社は福祉大国日本といえども極わずかです。

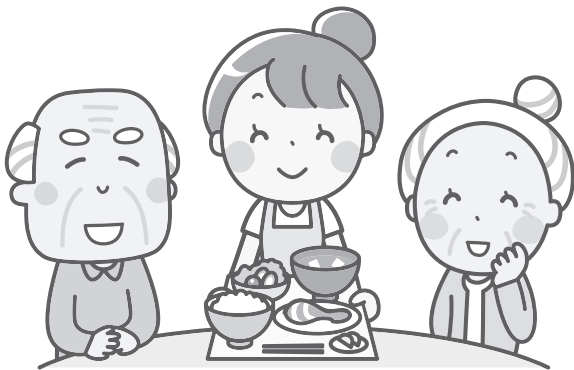
私は交流会に参加するまでは、狭い岩手町内にこれだけ多くの障がいをもつ方が居るとは知りませんでした。また、ボランティア活動に参加したことの無い世間の人達も私と同じように認識のズレがあるかもしれないと思います。

活動を通して、私は障害のある方に対する認識が間違っていたことを知りました。ボランティアに参加する前はもつと暗い雰囲気なのだろうと思っていました。しかし、交流会に参加し運営した方々は、皆生き生きとしています。毎日の生活をどうすれば有意義なものにできるかと考え実行しているように見えました。そして何より全員がとても楽しそうでした。

私が「お手伝い」できたことは少なかったと思います。しかし、それを「満面の笑み」で受け取ってくれた方々に逆に「元気」をもらいました。

高齢者と障がい者と健常者が触れ合い、理解し、交流を深め合える場をもっと増やしてほしいと思います。私が考える本当の「バリアフリー」とは全ての障がいの度合いに対応可能な社会を構築していくことだと思います。

私が「手助け」できることは極わずかです。しかし、少しでも高齢の方や障がいをもつ方を助けられるように「笑顔」と「元気」を届けていきたいと思っています。



講評

阪神・淡路大震災が契機となつて、ボランティア活動が広く世間に浸透したためにその年を「ボランティア元年」とよく言われます。今年是一年を通して様々な台風などの自然災害に見舞われ、多くのボランティアが被災地に足を運んで活躍をした年でもあります。

作品の中で、次のように作者は述べています。「ボランティア活動で大切なこと、一つ、笑顔で接すること、一つ、自らが楽しむこと。」と。

楽しさの共有。やってよかった。ボランティア活動を通して「笑顔」を届け、「笑顔」をもらうこと。ふれあいの中から「元気」を分かち合える、それがボランティア活動なのだとは続けます。

高齢者や障害者の方々との交流会に参加した体験をもとに、ボランティアについて深く考え、自分の主張としてまとめ、お年寄りや障がいを持つ人たちと共生することの大切さを、丁寧に記述した素晴らしい作品です。

講評 「心のうつくしさと輝き」とは

「心のうつくしき・輝き」をマザー・テレサは、次のように語っていました。

自分の生き方の気高さ、自分を律する態度、そして他人への思いやりの深さだと。

今年度の『福祉作文コンクール』には、多くの応募作品の中にその心のうつくしきや輝きを見つけ出すことができました。

従来は「お年寄りを親切にすること、敬意を払うこと、いたわること」などをテーマにした作品が多かったのですが、今年度は多様な視点で「福祉」をとらえている作品が多く見受けられ、新鮮に感じました。特に、お年寄りとのふれあいをおして、いたわりから尊敬の念を抱き、お年寄りの生き方に感銘を受け、自分の人生の目標だと言いつけるような作品。お年寄りとの身近なふれあいがほのぼのと描かれている作品など。

また、障がいのことを学び知り、障がいのある人と共に生きることの大切さを書いた作品。今も継続して行なわれている社会福祉協議会が主催で開催される学校での福祉体験、学校行事などで実施する福祉訪問活動から学んだことを作品にしたこと。

さらに、読書をつうじて学んだことを日常生活に戻して、福祉という視点から作品を仕上げたこと。この点からも社会福祉等の体験や訪問体験という視点からの作品だけでなく、

く、福祉を広く解釈することから多様化してきたことは評価できます。

改めて、学校教育の中で取り組んでいる「福祉教育」の成果が応募作品に表れていると考えます。子どもたちの福祉への関心興味の深まりが、作品の質の向上につながっていると考えます。どの作品も甲乙つけ難く、年齢に応じた素直な表現を作品の中に生かしています。

福祉作文に取り組み作品を仕上げるまで、丁寧にご指導された各学校の先生方のご労苦に敬意を払い、感謝申し上げます。

さて、この入選文集を手にとられ読んでいる皆様方、一つ一つの作品から子どもたちの素直な表現を感じ取り、「うつくしい心と輝き」をもち、健やかで、未来を見つめ成長をし続ける子どもたちに思いを馳せてほしいと念じております。

終りに、岩手町の児童生徒に福祉の心を育む様々な機会を提供して下さっているご家族、地域の方々、ご指導くださった学校の先生方、そして、社会福祉協議会等の関係機関の職員の皆様方に心より感謝と引続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

〈審査委員長〉

岩手町教育委員会 教育相談員 宇部 幸治

生活福祉資金 貸付制度のご案内

生活福祉資金貸付制度とは

他の貸付制度が利用できない、低所得世帯や障がい者世帯などの経済的自立と生活の安定を目指し、国と県が資金を出し合い、民生委員や市町村社会福祉協議会が窓口となって生活援助指導を基に無利子や低利子で資金貸付を行うものです。

ご利用いただける世帯

・低所得世帯

世帯の収入がおおむね市町村民税非課税程度。または生活保護法に基づく生活扶助基準の1.7倍程度

・障がい者世帯

身体障がい者世帯、知的障がい者世帯、精神障がい者世帯

・高齢者世帯

65歳以上の高齢者の属する世帯で、その世帯の所得が、おおむね生活扶助基準の2.3倍程度（高齢者を含む4人世帯でおおむね年収600万円程度）以下の世帯（注：福祉資金については、「日常生活上介護を必要とする状態」にあることが必要）

・生活保護世帯

生活保護を受けている世帯

利用にあたって…

・連帯保証人（一部、連帯保証人なしで借りられる資金もございます）

原則として県内に居住する65歳以下の方で、借受世帯の償還困難時には債務を履行することができる方。

日頃から熱心に相談援助してくれる方で、申込人よりも収入の多い方。

・利子・返済方法

貸付利子は「年1.5%」（一部、無利子の資金もございます）で、預貯金口座からの自動引き落としとなります。

償還期限内に償還完了できない場合は、残元金に「年10.75%」の延滞利子が発生します。

・民生委員児童委員

この資金は生活の安定や立て直しを図ることを目的としていますので、申込時から償還完了まで、担当の民生委員が支援、相談にあたります。

・注意

資金の種類によっては、利用できない世帯もございます。制度の詳しい内容については、社会福祉協議会まで問い合わせ下さい。

貸付資金の種類

・総合支援資金

失業や収入の減少により、世帯の生活の維持ができなくなった等、生活の立て直しのための貸付資金です。

・福祉資金

福祉機器の購入や、商売・結婚・出産・葬儀・引越・住宅改修等の経費、または日常生活上一時的に必要な経費等お貸しするものです。

・緊急小口資金

緊急的かつ一時的に世帯の生計維持が困難となる場合の貸付資金です。

・教育支援資金

高校・大学・短大・専門学校等への就学に際し、入学金や制服等の就学経費と、授業料や通学定期代等の修学経費の貸付資金です。

・不動産担保型生活資金

今お住まいの居住用不動産を担保に生活資金をお貸しするものです。

生活福祉資金に関する
相談・申し込み・問い合わせは…

岩手県社会福祉協議会
TEL019-637-4440

または

岩手町社会福祉協議会
TEL62-3570

所在地：岩手町大字五日市 10-51-1



赤い羽根共同募金

みなさまからたくさんの募金にご協力を頂きました。

◆戸別募金（一般募金・歳末募金）

（単位：円）

地 区	世帯数	一般募金	歳末募金	地 区	世帯数	一般募金	歳末募金	地 区	世帯数	一般募金	歳末募金
前ヶ沢	17	15,300	3,400	田中・栄小路	52	46,800	10,400	下黒内	44	39,600	8,800
吉谷地	6	5,400	1,200	上大町	35	31,500	7,000	葉木田	46	41,400	9,200
御堂新田	15	13,500	3,000	下大町	68	61,200	13,600	今松	52	46,800	10,400
御堂	36	32,400	7,200	上野口町	53	47,700	10,600	上鳴沢	52	46,800	10,400
水堀	31	27,900	6,200	下野口町	36	32,400	7,200	下鳴沢	32	28,800	6,400
小山沢	13	11,700	2,600	上愛宕下	48	43,200	9,600	上浮島	23	20,700	4,600
朽木林	20	18,000	4,000	新愛宕下	76	68,400	15,200	下浮島	80	72,000	16,000
北上	6	5,400	1,200	下愛宕下	110	99,000	22,000	岩崎	31	27,900	6,200
上横沢	22	19,800	4,400	江刈内	52	46,800	10,400	子抱	21	18,900	4,200
下横沢	21	18,900	4,200	石神	85	76,500	17,000	芦田内	34	30,600	6,800
尾呂部	60	54,000	12,000	上苗代沢	44	39,600	8,800	野原	78	70,200	15,600
川原木	52	46,800	10,400	下苗代沢1	54	48,600	10,800	雪浦	54	48,600	10,800
笈の口	20	18,000	4,000	下苗代沢2	46	41,400	9,200	橋場	143	128,700	28,600
豊岡	32	28,800	6,400	駅前	22	19,800	4,400	上町	27	24,300	5,400
大坊	81	72,900	16,200	犬袋	119	107,100	23,800	駅通	113	101,700	22,600
岩瀬張	37	33,300	7,400	子抱団地	15	13,500	3,000	下町・山道	88	79,200	17,600
曲り	8	7,200	1,600	細沢	42	37,800	8,400	境田・ニツ森	175	157,500	35,000
一本柳・白栂・ 日ノ神子	42	37,800	8,400	太田	54	48,600	10,800	秋浦・高梨	34	30,600	6,800
下屋敷・膝突・ 葉の木・上平	40	36,000	8,000	横田	96	86,400	19,200	土滝・雨滝	8	7,200	1,600
小金沢・ 大金沢	17	15,300	3,400	半在家	18	16,200	3,600	子九十	15	13,500	3,000
相寅瀬・ 万部・落葉	44	39,600	8,800	久保・落合	56	50,400	11,200	大渡・遠中沢	25	22,500	5,000
大平	9	8,100	1,800	新田	43	38,700	8,600	太布	13	11,700	2,600
上・下五日市	168	151,200	33,600	土川	55	49,500	11,000	水無	25	22,500	5,000
新町・城山	135	121,500	27,000	大森	25	22,500	5,000	丸泉寺	11	9,900	2,200
民部田	131	117,900	26,200	一方井	106	95,400	21,200	穀蔵	4	3,600	800
柳橋	38	34,200	7,600	中田	34	30,600	6,800				
舘	111	99,900	22,200	黒石	69	62,100	13,800				
				大股	11	9,900	2,200				
				上黒内	22	19,800	4,400				
								合 計	3,986	3,587,400	797,200

みなさまの募金が様々な地域福祉事業に役立てられています

岩手県共同募金会岩手町共同募金委員会（会長 藤原 徳明）では、平成30年10月1日から12月31日の赤い羽根共同募金運動月間中に、一般募金と歳末たすけあい募金を行い、町内各世帯を始め、学校、病院、職場、個人や団体等たくさんの方々からご協力をいただきました。

募金の総額は、一般募金が3,894,035円、歳末たすけあい募金が797,200円でした。

一般募金については、町内で活動する福祉団体やボランティアに関する事業、福祉教育に関する事業、歩行困難な高齢者や障がいのある方のための外出支援サービスや理美容サービスなど、岩手町の地域福祉事業等に役立てられます。

歳末たすけあい募金の使い道については、義援金の配分報告をご覧ください。

みなさまの善意が地域を支えています。たくさんのご協力に心から感謝いたします。

◆職域募金

(単位:円)

職場名	一般募金
(有)久保良商店	5,000
府金製粉(株)	10,000
佐渡医院	10,000
JA 新いわて 岩手支所	4,067
ケアホーム川口	9,306
(株)高橋建設	5,000
岩手罐詰(株)岩手町工場	5,000
(株)佐藤建設	2,000
特別養護老人ホームあんずの里	28,309
盛岡中央消防署岩手分署	2,100
ジョイス沼宮内店	193

(単位:円)

職場名	一般募金
岩手町デイサービスセンター	10,000
沼宮内歯科医院	10,000
北上脳神経外科クリニック	10,762
一方井採石有限会社	3,530
いわて総合動物病院	1,086
医療法人 佐々木医院	2,983
佐藤整形外科クリニック	3,966
西館保険サービス	5,000
(株)宮崎商店	273
岩手トヨペット(株)沼宮内支店	570
沼宮内郵便局	279

(単位:円)

職場名	一般募金
東北銀行沼宮内支店	605
岩手町役場	11,797
岩手町社会福祉協議会	8,211
瀬川モータース(有)	7,024
外山商店(有)	3,396
塚谷医院	5,050
ベルプラス沼宮内店	903
介護いわて	2,500
職域募金合計金額	168,910

◆学校募金

(単位:円)

学校名	一般募金
岩手町立川口小学校	2,500
岩手町立一方井小学校	7,405
岩手町立久保小学校	3,170
岩手町立沼宮内中学校	8,100
岩手町立川口中学校	8,496
岩手県立沼宮内高等学校	7,108
学校募金金額	36,779

◆興行募金

(単位:円)

募金者名	一般募金
産業まつり街頭募金	23,053
南山形地区文化祭実行委員会	37,700
北山形地区文化祭実行委員会	28,700
森のアリーナ	11,488
興行募金金額	100,941

◆募金合計

(単位:円)

一般募金合計額	3,894,035
歳末募金合計額	797,200
共同募金合計額	4,691,235

◆その他募金

(単位:円)

募金者名	一般募金
預金利息	5

歳末たすけあい募金

地域歳末 たすけあい運動

地域歳末たすけあい運動は、「みんなでささえあう、あったかい地域づくり」がスローガンです。

町内の要保護世帯や在宅でねたきり等の高齢者や重度障がい者等を対象に、歳末たすけあい義援金として、歳末たすけあい募金を配分しております。

みなさまからのご協力に感謝いたします。

義援金配分の報告

(単位:円)

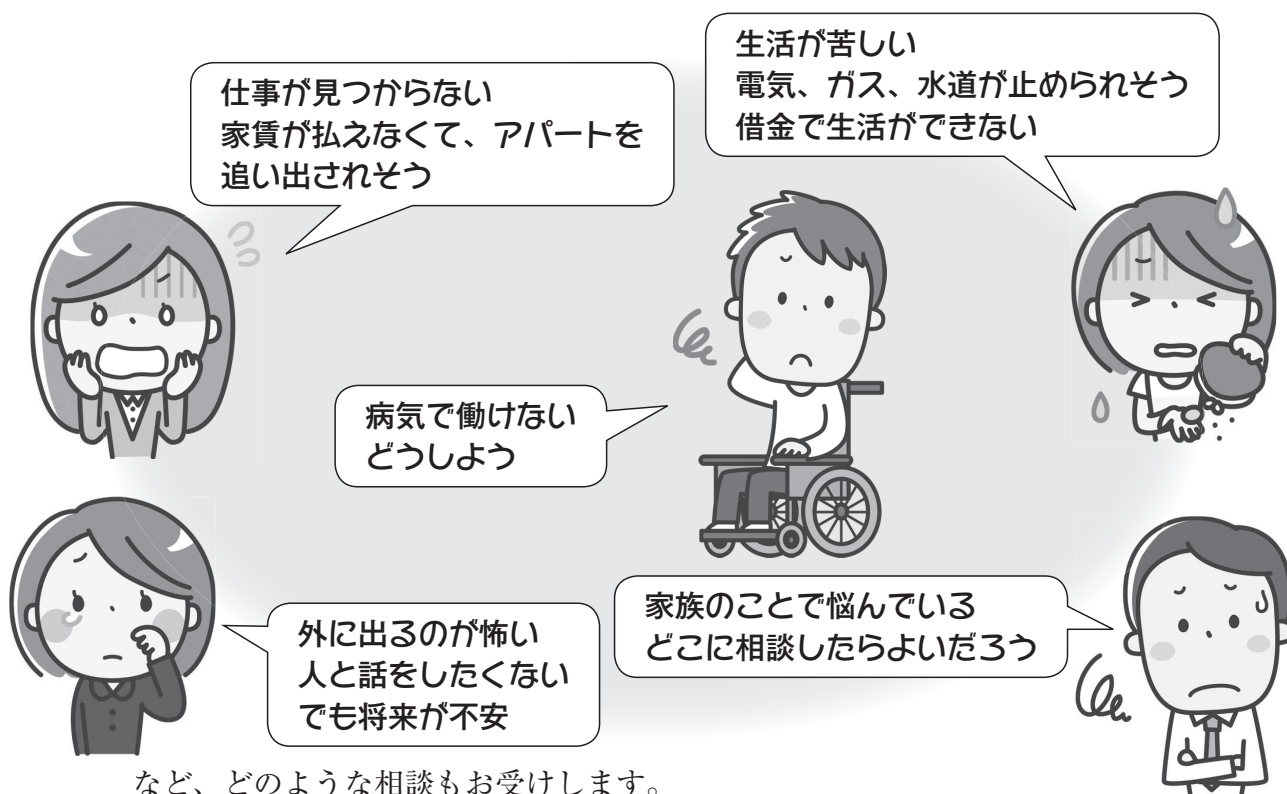
配分対象及び経費	配分額
要保護世帯 103 件 要保護世帯人員 187 名	393,000 円
準要保護世帯 45 件 準要保護世帯 73 件	163,000 円
在宅ねたきり・認知症高齢者 7 名	49,000 円
在宅重度障がい児・者 18 名	126,000 円
合 計	731,000 円



～生活困窮者自立支援制度について～

平成 27 年 4 月から盛岡広域振興局では生活困窮者自立相談支援事業を岩手県社会福祉協議会に委託し、「いわて県央生活支援相談室」を開設しております。

生活・就労・福祉などの問題解決に向けて関係機関と連携しながら専門の相談員が一緒に取り組んでいます。



問い合わせ先

いわて県央生活支援相談室 岩手県社会福祉協議会
電話番号 019-637-4473

または、
岩手町社会福祉協議会 電話番号 0195-62-3570

受付時間 8:30～17:15 (月～金) 祝祭日を除く

窓口に来られない場合には相談員が訪問することもできます。
ご家族など周りの方からの相談でも受付いたします。
一人で悩まず、お気軽に相談ください。



日常生活自立支援事業がお手伝いします。

毎日の暮らしの中にはいろいろな不安や疑問、判断に迷ってしまうことがたくさんあります。日常生活自立支援事業は、このような場合に、福祉サービスの利用手続きや、金銭管理のお手伝いをして、あなたが安心して暮らせるようにサポートします。

利用できるのは、自分ひとりで契約などの判断をすることが不安な方や、お金の管理に困っている方などです。例えば、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者などで判断能力が不十分な方が対象になります。

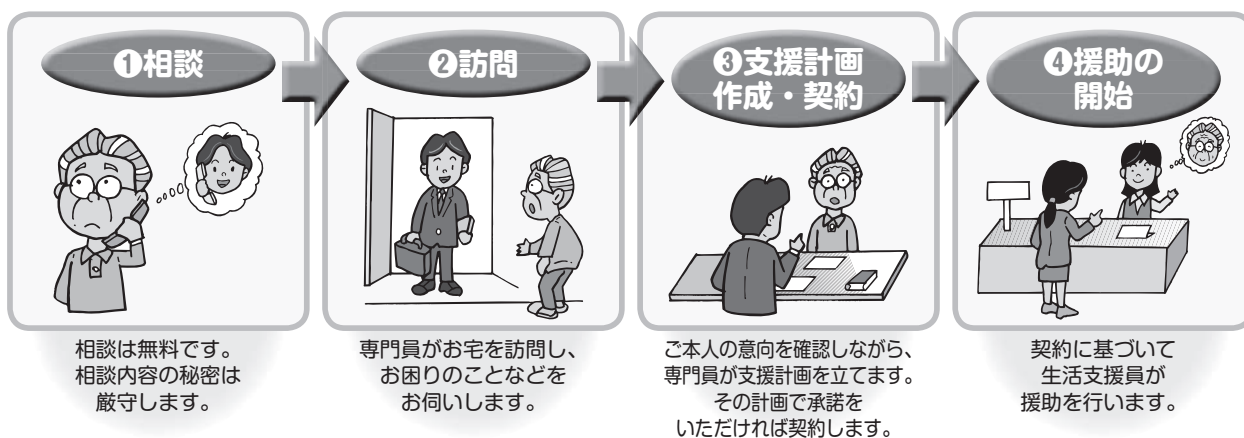
財布や通帳を
置き忘れる。

支払いや手続きが
不安だなあ



どんなサービスがありますか？

- 福祉サービスについての情報提供
- 日常的な金銭管理サービス
- 福祉サービスの利用手続きサービス
- 苦情解決制度の利用サービス
- 福祉サービスの利用料などの支払いサービス
- 書類などの預かりサービス



岩手町社会福祉協議会にご相談ください。(電話 62-3570)

～ 岩手町社会福祉協議会 ホームページの紹介 ～

岩手町社会福祉協議会（会長 藤原 徳明）では、社協の紹介や各事業のお知らせをホームページに掲載しております。また、社協の現況報告についても「社会福祉法人の財務諸表等の電子開示システム」で公表しており、過去のいわてまち社協だよりも閲覧できますので是非ご覧ください。

- 主な内容 各事業の開催案内 災害義援金の報告 採用案内関係
いわてまち社協だよりの掲載 町立保育所の紹介

岩手町社会福祉協議会ホームページ <http://iwatemachi-shakyo.org/>

検索



～福祉に関する情報コーナー～

まちの福祉

沼宮内保育所で 豆まき会

沼宮内保育所（所長 佐藤 誠子）は、平成三十一年二月一日に豆まき会を行いました。赤鬼と青鬼も登場し、子ども達は一生懸命豆をぶつけて、一年の無病息災を願いました。



子育てサロンでランチ会

岩手町社会福祉協議会（会長 藤原 徳明）は、平成三十一年二月二十八日にレストラン石神の丘で子育てサロン「すくすく」ランチ会を開催しました。地元の安心安全な食材を使ったお料理を親子でゆっくり楽しみました。



ご寄附いただいた方の紹介

寄附者名・寄附団体名

- 岩手町産業まつり農林部門…………… 30,000 円
- 岩手町婦人団体連絡協議会…………… 50,000 円
- 匿名…………… 岩手町商品券 3,000 円分
- ゆはずりフォームサークル 代表 鍋倉 留美子 様 …… 15,000 円
- JA 新しいわて女性部 岩手支所…………… 30,000 円
- 瀬戸 正信 様 …… 100,000 円
- 匿名…………… 560 円
- 匿名（あいポイント）…………… 500 円
- みちのくコカ・コーラボトリング(株) 西根営業所…………… 1,017 円

【平成30年11月23日～平成31年2月28日受付分】